

「洗礼おめでとう」

主任司祭 晴佐久昌英

この春、復活祭に高円寺教会にて洗礼を受けた76名の受洗者に、心からお祝いを申し上げたい。洗礼の恵みの大きさについては入門講座や面接で強調してきたつもりだが、実際に体験した今、どのような感想をお持ちだろうか。ぜひ、一人ひとりの喜びの声を聞いてみたい。

もっとも、おそらく我々は、洗礼の恵みの本当のすごさ、すばらしさについて、その1パーセントも理解していないのだと思う。それを曇りなく理解できるのは永遠なる天に生まれたときであり、そのとき人は、自分の人生において確かに起こった洗礼という出来事が、いかに神聖で偉大な出来事であったかを知って驚愕し、感謝と賛美を捧げることになるのだろう。この世にある間は、神のなさるわざを信じて、ただひたすらこの偉大な神秘に与るのみである。

洗礼とは、神の子としての「新たな」誕生である。もとより宇宙も生命もこのわたしも神から生まれてきたのであって、その意味ではすべての被造物は初めから神の子である。しかし、「神の子である」ということと、「自分が神の子であると知っている」ということとは違う。つまり、神の子が、自らが神の子であることに目覚めてそれを受け入れたときこそ神の子の「真の」誕生のときなのであって、洗礼とは、そのような「新たな」「真の」誕生なのである。

逆に言えば、たとえこの世に生まれてきても、神が親であり、自分は神の子だと知らないうちは、いまだ未生の段階なのだ。まことの親はそんなわが子の真の誕生をひたすら準備し、究極の神の子であるキリストによって真の親の愛に目覚めさせ、ある日ある時ある人に、「神の子として新たに生まれる洗礼」を決意させる。

したがって、あの洗礼式の中での信仰宣言ほど感動的なものはない。そのとき神は、かわいらしい信仰を精一杯宣言するまでに成長したわが子に目を細め、ああ、ついに気づいてくれたかと抱きしめているのだから。「あなたこそわが親です。あなたの無償の愛を信じます」とわが子から打ち明けられたときの親の喜びがわかるだろうか。結局のところ、洗礼の喜びとは、天の親の喜びに包まれる喜びなのである。